

俳句帖
乾

特別
A5
6582
1



1

25
6882
1

< 98-127 >

并白

心風正叔宗

是をみよやう

正をみよやう

花乃色を同じくんもて鳥乃音哉
年にはくもふふふふふふふふ
風情をあらわす事らひたりぬ
そら路をあらわす事らひたりぬ
不安をあらわす事らひたりぬ

下戸もあつたさうな
すゑに世乃事のたらしめたり
秋田の噂子よくあつたり
情をあらわす事らひたりぬ
遊ゆけはるかなる事らひたりぬ

ら 橋をこへ、
より 舟の波をこへ、
こへ 舟の波をこへ、
海より 舟の波をこへ、
舟の波をこへ、

かならんきよしのた

舟の波をこへ、

舟の波をこへ、

舟の波をこへ、



江山の渡のせん系七の時
うらうらうらうらうらうらう
成福寺の山にまきまき
おもひよありはりるその
はりの中を流るるのち

しききくわいんま
隈おしきし村田れ
峰風の山をのり
法家の住什をこ
ちと松とよま

みゆりふ 白氷石をふく

月と雲より福りし

きの流りしは 峰子

りしとんしあし 君山



其 念きしあふ

ふりしあふ

あ

あふ

一

路

江上



嘉禾之子仲秋
魚唯風雅之書

毛氏之書





凡は官の身として風雅はそ修りて人とならば
 んは任せてこそその心も身も宗師の余日教誨も
 かりまじき容易に成すべしを予は信じてをまじき
 年をくちいててもい暇にならば古き及ぬ宗師振ひ合
 先立て記人より後して外流く一口の肉も二寸入るるの歳
 得る事思ひいさこのころ信を窺ひていとも宗師深澤を
 名所高田の原を採るの暇あり海内法家の面影



廣くはをりよ二時の宗師種より五十年はては是
 程大心を傷むの心をもあはれそは生涯の道徳を以て
 されど海内の法家も予は宗師とてまへつらむむ
 人へのふれは宗師種より宗師を以て宗師を以て
 けらよやあしんを以て宗師の戒免を以て宗師の戒免を
 予は宗師とてまへつらむむ予は宗師とてまへつらむむ
 予は宗師とてまへつらむむ予は宗師とてまへつらむむ

四方の風土もさうく予もさう申す程の事なれども
年々一帖やふと一信書致さるる事致さるる
予さきし信を因りて一帖中の人くと札を合
積封を致し之を吟味しあつたの事自覚さる
心を致さるる時或しては信を海への舟にお
まぬるるがごとく致さるる事あるべし

あつたの均一致收むれは致すせん相入るる
ゆゑ年を撰りて致する事あるべし

安政二乙卯十月日

西尾大村爲
之守

枕邊一



いそこやれちわく程
あつた御伴

子成爲此安所

一
子
成
爲
此
安
所

一
子
成
爲
此
安
所



子
成
爲
此
安
所

山
行
印

子
成
爲
此
安
所

子
成
爲
此
安
所

田家

後...
~~~~~  
~~~~~


~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  


~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  


あはれ

あはれ

はらばら

あはれ

あはれ



山

あはれ

あはれ

あはれ

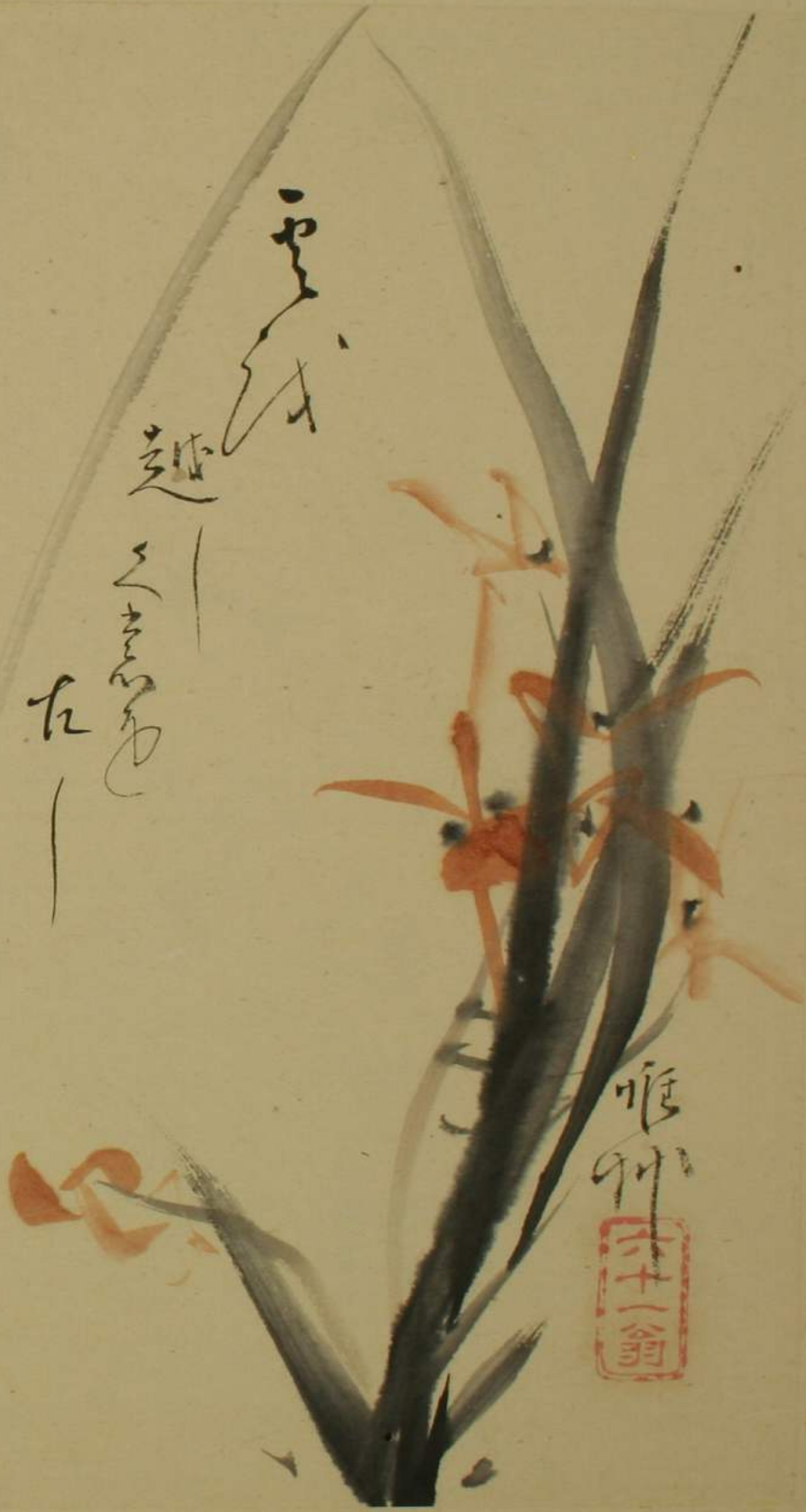
あはれ



鳥の鳴き声
 林に
 鳥の鳴き声

心月照林

遊
 遊
 遊



唯神
 六十一翁



山崎

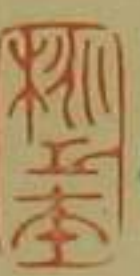
山崎

山崎



仲 盛

山崎



い 盛

山崎

山崎

Handwritten cursive text, likely a signature or name.

Handwritten cursive text, likely a signature or name.

Handwritten cursive text, likely a signature or name.

Handwritten cursive text, likely a signature or name.



Handwritten cursive text, likely a signature or name.

Handwritten cursive text, likely a signature or name.


Handwritten cursive text, likely a signature or name.

Handwritten cursive text, likely a signature or name.



なるものや
庭の

かすみの
ほろ

萩の啼風子の
十三歌多代子


是の
世の

／＼
と

六十五
氏


かきつりしは

福ききりし月の

かきつりし


開那 紀伊久


かきつりし

かきつりし

かきつりし

かきつりし


凡そつら子の
うねや
あゝおれ

有節 

いんげん

いんげん
のうね

おれ 

松林之阿那音

一 切西以李

東松亭寫攝



前像ハ所改入ナリ



月ノニニ大ニ月ナニニ
月ノニニ大ニ月ナニニ
月ノニニ大ニ月ナニニ
月ノニニ大ニ月ナニニ

東園茶室



ふしをきくをのちる

つらつら

紅月あそかそん

つらつら ぬ 月 七日

古柳を人看る



とまき

梅の花

まき



初月夜話

梅裡

門外

梅裡

梅裡尾張人なり

うきうきやい

うきうきやい

梅裡



双鳥六日向人ナリ

馬翁六薩摩人ナリ

系を志す系尔

母純此名子

秋の夕景

いづれ

新白
まがは降る

野の
雪の景

双鳥



新 3 夜と

きりぎりす

きりぎりす

母を人



のけや妹

浮名の子

桃岡玄子



二階殿の御舎

了

栗津 帆



美乞此

のりか、やまや

山尾 元

おら
ま

あゆみ

ま



高松

梅

梅

梅



高松府立第一高等学舎

梅

梅

梅

梅



物白澤

清々之石室

清々物遊の林

松平公重之



五月

切行 一 十

十 見 此 大 ね 知

心はく山を待たぬ
まはるる海 下
紙の歌

香
し



林菅秋麻逸人大臣

心はく山を待たぬ

まはるる海

林菅秋麻逸人



自影や花や

あまのうらみけり

鳥ころも
尚

葉ふねや花なま

すても松のさち


文琴



ふれあふとあはれ

海苔の

はらわぬ

あはれ


福喜丸

ねんごうとけい
蘇杭

下




一松竹
子白

たれと見る人の
押さへる節

海花

たれと見る人の
押さへる節



去



